



# YMCA

月刊 The YMCA 付録

編集・発行 / 日本 YMCA 同盟 東京都新宿区本塩町7番地  
大阪青年 発行: 末岡祥弘 編集: 大阪 YMCA 広報室  
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6  
TEL06-6441-0894 FAX06-6445-0297  
URL: http://www.osakaymca.or.jp/  
(年10回発行) 1947年10月27日 第3種郵便物認可

## 大阪青年

2008 Jul. 7  
Aug. 8  
No. 608

2008年度 年間聖句

「めいめい自分のことだけでなく、  
他人のことにも注意を払いなさい。」  
(フィリピの信徒への手紙 2章4節)

### 大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。
- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組む、平和で公正な世界をめざします。

# 「家族、地域と共に歩む」

YMCA松尾台幼稚園 園長 **藤岡 宏樹**



最近、幼稚園の現場で感じていることは、園の行事に父親の参加が増えたことである。かつて、父親といえば、仕事重視で子育ては母親任せの感が強かったが、近年父親が、休みを行事に合わせたり、午前中だけ園に足を運ばれたり、家族で協力し合いながら子育てをしている様子が見える。子どもたちにとってもありがたい現状である。

しかし、家族内のつながりはあっても、各家庭間や地域でのつながりはどうだろうか？ 子育てに関するグッズ(便利用品や早期教育教材など)や情報は、どこにいてもすぐに手に入る。その一方で、親たちは、子育てに不安を抱えていることも事実である。いざという時に相談する人がいない。情報があっても、それが正しいのか、また、どの情報を頼るべきなのかわからない状況に置かれている。このことは、核家族化と地域におけるつながりの不足等のため子育ての伝承が薄れ、

困ったときに相談したり、頼ったりできる人が身近になくなっていることが一つの要因といえる。

例えば、児童虐待問題は、子どもを取り巻く状況の変化と子育てに悩む親の不安を浮き彫りにしたものである。厚生労働省の調べによると、2006年度の児童相談所への相談件数は、全国で37,343件に上り、児童虐待防止法が施行されたときの約3.2倍、統計を取り始めた1990年と比べると実に3.4倍となり、年々増加傾向にある。

孤立する家族への子育て支援の一環として、幼稚園では、『園庭開放』や『なかよしらんど』、『子育て相談』を実施している。また、地域活動委員や卒園児の保護者にもボランティアで関わってもらうカーニバルやファミリープログラムを行い、幼稚園が、地域のファミリーサポートセンターとしての役割を担うようにしている。

また、1997年以降、増加傾向にある共働き世帯への支援として、幼稚園での午後6時までの預り保育の実施、2006年度開設のYMCAとさぼり保育園(認可保育園)、川西能勢口駅前でのYMCAかわにし保育園(特定認可外保育施設認定基準適合)がある。特に、かわにし保育園は、育児支援から幼児教育への連携を幼稚園との協力により実現している。但し、しつけや社会マナーを保育園や幼稚園のみが受け持つのではなく、家庭と連携できるように常にコミュニケーションを大切にし、お互いに支え合う姿勢を保つようになっている。

私たちYMCAは、次世代を担う子どもたちが地域で豊かに育まれるように、ネットワーク型福祉社会(誰もが助けたり、助けられたりできる社会)の実現に向け、家族、地域の持つ課題を敏感に感じ取り、今、何が必要なのかを考え、地域の人々をつなげながら、その課題解決に向けて日々努力するものである。

※なかよしらんど・猪名川町とその教育委員会から後援名義を取得している活動、同じ年代の子どもを持つ家族間及び3世代のつながりを強めることを目的とした子育て支援

### 地の塩

▼「自然を青少年に、青少年に自然を」▼この言葉は、その生涯をキャンパスにささげた松田稔氏(元大阪YMCA副総主事)の著書「サ・キャン」の扉にサインとともにそえられたものです▼「最初のYMCAキャンパスは1881年、サマー・F・ダッドレーがニューヨーク州ニューバーグYMCAの少年7人を連れて、10km離れたオレンジ湖パイン・ポイントで、8日間のキャンプ生活を試みた。ダッドレーは『我々は時間の許す限り、キャンプを奨励する。なぜならば、人間の能力や働きに、最も有効なものであるから』と。組織キャンパスの基礎を確立して、彼が最後に働いたシャンプレーン湖のキャンプ場は、『キャンプ・ダッドレー』の名称を贈られ、その名を永久にとどめられた。』(松田稔著「サ・キャン」)

▼YMCAに長く関わった者たちは若いときにキャンプ生活を経験して、自然からの恩恵と尊厳を学び、今日の自分があると思えることの幸せに心から感謝を捧げたい

▼松田氏のキャンプを通しての願いは、この本にまとめられ、青少年育成に活用されています。実際、キャンプの指導を受けた者たちは、社会でリーダーシップと、何より目に見えないものへの思いを強くして、生き方を謙虚な姿勢へと導かれています▼1951年に六甲キャンパスが開設され、阿南海洋センターも開設40周年を迎えました▼当初、六甲ではテントを張り、飯ごう炊きでの食事、キャンプファイヤーでの歌声、夕陽会と言う名の祈り会、阿南センターでは海の体験と、どれもが若いときの貴重な経験として人格形成に培われています。(琢)